

R7年度特別支援学級担当者指導力向上研修レポート ～スーパーティーチャー及びコアティーチャーの実践より～

教室設営

全体と個別の時間割を掲示
※交流は色分け

連絡事項や1日の流れを分かりやすく提示

収納するものをラベルで示し、整理整頓する

【動線を意識した配置】
登校し、席で道具類を出した後
①提出物を提出 → ②バッグを棚に → ③スケジュール等の確認

学習の積み重ねが把握できるように、教室後ろに学びの足跡を掲示

授業づくり

凹に注目しすぎ **子供の願いを大切に**

できない 苦手 凹った

友達と遊びたい
自転車で乗りたい
本を読みたい
こうなりたい!

本を読みたい

実態を捉える際は、凹の部分に注目しすぎず、子供がこんな姿になりたいという思いを大切に!

じりつつどうのめあて

ゴール! ひとりで行ける!

めあて
さいごまでは
なをしをきく!
ふりかえり

①個のめあてを明確に設定する
②個のめあてに対する振り返りの時間を (文字や発表、シール等で)

授業を分かりやすく構成する

①パターン化する
例：めあての確認→自力解決→グループ解決→振り返り

②スモールステップにする (認めほめの機会を多く)
例：漢字学習…空書き→指書き→なぞり書き→書き取り→意味調べ

③5分単位で授業を組み立てる
5分の学習 (音読、視写、算数の自力解決、ペア学習等)
10分の学習 (話し合い、学習のまとめ、色塗り等)
15分の学習 (討論、作文、問題作成等)

④空白の時間をなくす
例：発展問題→問題作成→ミニティーチャー

複数学年の場合の工夫「ずらし」と「わたり」
「直接指導」と「間接指導」の場面を設定

①各児童生徒の学習内容の確認
②学習ペア、学習の場等の確認
③指導する順番と時間配分 (10～15分)
④間接指導の内容を検討 (ヒトカード等の準備)

令和7年度 特別支援学級担当者指導力向上研修 レポート

【スーパーティーチャー及びコアティーチャーの実践より】

(1) 自立活動の授業において

- 子供の実態を捉える際には、凸凹の凹の部分に注目しすぎずに、日常生活で子供が困っている場面や会話等から分かる子供がこんな姿になりたいという点を大切にする
- 子供と一緒に自立活動の目標やめあて、ゴールの姿を設定→そのための教材選び
- 自立活動を実施する場合は、個人のめあてを明確に設定する
(例:個人の実態に合わせたいいくつかのめあての中から、子供がめあてを選択する形)
- 個人のホワイトボードに、めあてと振り返りが表示できるように工夫
- 振り返りの方法は、文章で書いたり、シールを貼ったりする等、実態に合わせた工夫
- 個人の目標と振り返りを発表する時間を設定

(2) 各教科の授業において

- 個別学習では三段ボックス(キャスター付き)が準備され、棚ごとに①②③と順番に学習プリントが入れられ、各自で学習を進められるように工夫
- 結果よりも過程を大切にした言葉かけを常に意識(認め、ほめ、励まし、伸ばす)
- 自立活動で学んでいることをキーワードや合言葉にして、日常生活や各教科の授業で言葉かけするとともに、交流学級の教科担任とも共有する

【教室設営から】

- 入室したら、①「提出物のかご」→②「ロッカー」→③「時間割等の確認」→④「机」
※動線を意識した配置や掲示
※机上や棚は常に整理整頓(何をどこに入れるのか分かりやすくイラストで表示)
- 学習の積み重ね(自立活動等)が把握できるように教室後方に掲示
- 学習する空間と作業をする空間を分けて配置
- クールダウンするスペースの設置